

### 改正性能評価基準マニュアル類説明会の開催

3月15日(木)14時30分からかながわ県民センター305会議室で開催された。まず改正マニュアルの根拠となったJASS6鉄骨工事標準仕様の改訂概要について全構協技術委員長である岸部理事長から説明があった。改訂のポイントは、①レーザ孔あけ加工は特記があるまたは工事管理者の承認を受けた場合に加工できるとし



、溶損部を含む孔径の精度は±0.5mm以下となる。クレーンガーターなどの疲労強度が重要となる部材では

溶損部が応力に対し直角方向にある場合は耐力がおちるので注意が必要となる。②完全溶込み溶接に用いる30度開先が追加されたことで工事管理者の承認試験が不要となったが、組立精度の許容差に注意を要する。③高力ボルトの摩擦面に薬剤発生処理が追加されたが、下地処理の管理に十分注意が必要。また、溶融亜鉛めっき部材の高力ボルト摩擦面に従来のブラスト処理のほかリン酸塩処理方法が追加されたが、対比試験片ですべり係数が確保されているか確認する。④検査に関する事項が整理統合された。そして社内検査・受入検査等の内容の説明もあり、特に受入検査に特記がない場合溶接部の外観検査は検査対象範囲が溶接部のすべてになった。レーザーでの開先は認められていない、部分溶け込みの図が多く掲載されている、不適合という字句が随所に出てきている、ボルト接合には注意点が多い、関連して鉄骨工事技術指針、鉄骨精度測定指針も改訂されているのでよく参照する必要があるなどの説明があった。

次に石井性能評価委員長から、JASS6鉄骨工事標準仕様の改訂に伴い改正された性能評価基準マニュアル類についての説明があった。工作基準、検査基準、製作要領書基準などについて改正の箇所ごとに項目の順番が旧来と入れ替わっている箇所があるので注意が必要など指摘された。参加者は組合員47名、賛助会員8名の55名であった。

### 全構協関東支部会だより

- 3月6日(火)14時から鉄鋼会館で開催した。
- 岸部支部長が次期支部長として推薦した大竹副支部長の支部長就任が承認された。
- 運営委員会から、来年度は北陸支部との交流会、6月には年間生産高調査を継続実施することが報告された。
- 建設産業専門団体関東地区連合会の加入継続の可否を審議した結果退会することに決定した。
- 全青会関東ブロック協議会に来年度も活動経費として40万円を助成することに決定した。

### 全構協関東支部長を退任

岸部直喜理事長は、平成26年6月から2期4年間関東支部長を務められ、その間関東甲信越組合間の災害対策相互支援協定の締結、業界の統一名称の確立要望など推進されてこられました。3月6日の関東支部会で後任に大竹良明副支部長(群馬県鉄構業協同組合理事長)を推薦し、支部長を退任されることになりました。任期は6月の全構協通常総会までですが、これにより支部事務局も群馬に移管することになります。



### 役員会だより

- 3月15日(木)12時30分から組合事務所で開催した。
- 各支部から選出された来期役員候補者が全員承認された。また、理事長には岸部理事長の続投が確認された。
- 第44期通常総会議案書素案が審議され、決算関係以外大体の方向性が確認された。

・11月の合同支部会は箱根湯本温泉のホテルで開催することに決定した。

## Mグレード部会総会

3月22日(木)16時から組合事務所で開催した。定足数を満たしているとの報告により、石井会長は新加入の榎本鉄工所の紹介をした後、議長となり議案審議が始まった。1号議案の29年事業報告及び決算、2号議案の30年事業計画案及び予算案については議案通り承認され、3号議案の役員改選については役員を希望する人がいないため現役員が現職を継続することで全会一致承認されて閉会となった。



次に石井会長から3月に開催された全国Mグレード部会総会・研修会における鋼構造ジャーナル記者の講演「ファブの最新情勢」の要旨について、17年は大型物件中心で首都圏一極集中が顕著、鋼材価格も値上がりし、設備投資では大型化ないしコンパクト化の両極で増加し中間的なものは減少している、人材不足では外国人雇用の増と教育の充実化が進んでいるなど統計数値をもとに報告があった。また、市況情報では、受注残は5月から秋口まで各社バラツキがあり、以前より仕事が止まっている感がする。耐震や付帯鉄骨を主体にするところもいくつかあった。扱う物件もほとんどが100トン以下の仕事でこれもバラバラで、図面作成に時間がとられ製作がギリギリ、寸法が決まらず加工代より図面代が高い、単価的には悪くないが仕事の予定がつかないなど納期に関する苦情が多かった。この後懇親会が催された。

## 30年度建築鉄骨関連資格試験及び講習会開催予定一覧

資格	試験	講習会
鉄骨製作管理技術者 <全構協>	10月13日(土) 1級午前 2級午後 東京会場	9月29日(土) 連合会館 <東京鉄構工業協同組合> 9月上旬(3日コース) <日本溶接センター>
溶接管理技術者(後期) <日本溶接協会>	筆記11月上旬 口述11月下旬~12月上旬	1級9月4~7日他 2級9月4~6日他 <日本溶接協会>
建築鉄骨検査 技術者 <全構協>	製品検査 7月7日(土) 午前 東京会場	6月15(金)~16(土)日 埼玉建産連研修センター <全構協・関東支部>
	超音波検査 7月7日(土) 午後 東京会場	6月8(金)~9(土)日 埼玉建産連研修センター <全構協・関東支部>

※< >は主催者 ※講習会案内はその時期に組合から連絡します。  
※実技試験の実施は主催者のホームページ等で確認してください。

## 青年部の横顔

No. 4



(株)コイズミ  
工事部長 小泉 学  
秦野市名古木16-1  
TEL 0463-81-1349  
FAX 0463-83-1338  
E-mail  
mkoizumi@abelia.ocn.ne.jp

当社は鉄骨を主体とし建築・設計も営んでおります。秦野鉄工(株)として創業し、建築の仕事も扱うことから(株)コイズミと改名し現在に至っております。私自身は設計事務所に勤務してから現会社に戻ったので、差別化を図る意味でも、学んだ構造設計を活かした鉄骨製作・建築工事を目標に励んできました。最近になってその目論見が具現化してきており、年間数件は構造設計から現場までの一貫した鉄骨工事、耐震工事を実施できるようになってきました。この部分を当社の強みとして更に成長していきたいと思っています。反面、スペシャリストでなくジェネラリストになりつつあり、組合や青年部を通じて鉄骨の奥深さを感じているところです。青年部では関東ブロック協議会や全青会にも出向させて頂き、様々な人脈形成や情報収集、勉強の場を与えて頂いていることに感謝しています。そこで得たものを仲間にも伝えられるよう頑張っていきたいと思っています。

## 全国RJグレード部会連絡協議会通常総会

3月9日(金)15時からアクトシティ浜松研修交流センター(浜松市)において全国RJグレード部会連絡協議会第15回通常総会が開催されました。



出席者は28名で神奈川からは菅原、柳川、内藤、佐々木、小川の5名が出席しました。講演会では鋼構造ジャーナル編集長の大熊氏が部会設立当初の話から多種多様な工場が多いRJグレード部会同士の交流を密にしさらに発展して行ってほしいと強調されました。総会では、松枝会長が続投となり、当部会の菅原会長が新たに副会長に選任されました。松枝会長は「鉄と鉄の溶接を仕事にしているが人と人の心を溶接しお客様の満足を得られればさらに発展していく」と挨拶され、市況情報では全体的に5月までは忙しい状況にあ



るが山梨だけは仕事が薄い様子でした。その後、懇親会を浜松駅前の“うなぎ藤田”で行い、大いに盛り上がりました。  
[小川、佐々木]